

2026 ライフサイエンス知財フォーラム

デジタル化の進展と新しいAI利活用の 日常化がもたらす製薬産業の未来

2026年
2月3日 火

◎ 13:00~17:00
(開場 12:30)

参加費
無料
(事前登録制)

主 催 日本製薬工業協会

定 員 500名(会場参加)200名

開 催 ソラシティカンファレンスセンター 2階 ソラシティホール
(東京都千代田区神田駿河台4-6)

申込方法 下記方法に従ってお申込ください。(参加申込:2026年1月27日(火)まで)

- ①製薬協HP (<https://www.jpma.or.jp>) の最下部「**PRAISE-NETログイン、講演会受付システムはこちら**」をクリック
- ②「**講演会等受付システム**」をクリック。開いた画面の下「**講演会等受付システムに入る**」をクリック
- ③PRAISE-NET会員の方はIDとパスワードを入力ログインしてください。
一般、非会員の方(IDをお持ちでない方)は、メールアドレス(確認用含む)を入力してください。
追って管理者から確認メールが届きますのでメール上のURLをクリックしてください。
- ④該当する講演会欄の左「**詳細**」をクリック。「**個人申込**」または「**グループ申込**」をクリックし、必要事項をご入力の上、お申込みください。
- ⑤お申込み後、受講票が発行されますので、プリントアウトして会場受付までご持参ください。
また、受付時に名刺を1枚頂戴いたしますので、ご用意をお願いいたします。

注釈 ※会場からWeb 配信を行います。質疑等の対応はいたしません。アーカイブ配信の予定もございません。



こちらのQRコードからも
直接アクセス出来ます。

近年のデジタル化の加速とデジタル技術の目覚ましい進歩、特に生成AI等AI技術の進展の勢いはこれまで類を見ないものであり、医薬品産業のバリューチェーンを大きく変化させています。DXとAIの利活用抜きに、もはや医薬品産業のイノベーションは語れなくなると言っても過言ではありません。

製薬協ライフサイエンス知財フォーラムでは、2018年以降、これまでに4回にわたり、「医療データの利活用」「AIを活用した創薬」「情報のデジタル化とプラットフォーム化」「IPランドスケープ」「デジタル治療」「AIの活用と人材」等の議論を通じ、そこに関わる知的資産・知財権の扱い、そして事業と人材についての議論をしてまいりました。

この数年、創薬分野でのAI活用の事例が次々に紹介され、わずかな期間で化合物選定を成し遂げたことが報告されています。2024年のノーベル物理学賞と化学賞においては、AIの基礎・応用研究に贈られ、特に化学賞は、創薬研究でも重要なAIを使ったタンパク質設計と立体構造予測に関する技術でありました。

医薬品産業のバリューチェーンにおける、各業務における生成AIの活用は、単なる「作業の効率化」にとどまらず、AIエージェントの登場により、複数タスクを自律的に処理するようになり、ビジネスの自動化が視野に入ったと言われます。

一方で、AI利活用に伴うリスクについても直視する必要があり、ようやく、日本では2025年にいわゆるAI法が施行されましたが、

実際の課題について議論は、その後に設置された人工知能戦略本部で議論が始まったばかりです。そのような中、AI生成物についての特許出願を巡る裁判「ダバス事件」は、発明者、生成物の保護の在り方を巡る議論を加速させており、産業構造審議会特許制度小委員会でも活発な議論が行われているところです。

そこで、今回のフォーラムでは、製薬業界のバリューチェーンにおいてデジタル化とAI利活用が何をもたらすかについての現状を俯瞰し、その上で、具体的に、製薬企業内でAI利活用による業務の革新、さらに、創薬研究開発を例に、実際AI活用による研究開発の効率化がどこまでできているのか造詣ある方々から紹介する一方、AI利活用にあたり、留意すべき法制度や、AI生成物についての取扱い、保護の在り方等についても解説いただきます。同時に、AI利活用にあたり、データのプライバシーやバイアス問題、AI生成物についての信頼性等の課題についても紹介し、これらの前提を踏まえて、製薬産業として前述の種々の課題にどのように取り組むべきかについて議論を行う予定です。

製薬産業においてDXとAI利活用を推進することは、バリューチェーンの効率化、生産性向上に必須の課題であり、この課題解決抜きには、もはや企業として生き残りが難しい状況にきていると考えられます。今回のフォーラムが、製薬産業のイノベーション促進と、グローバルでの医療水準向上に少しでも役立つものになるよう、議論を掘り下げたいと考えております。

13:00
開会挨拶

手代木 功 日本製薬工業協会 副会長、塩野義製薬株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO

13:05 ~ 14:20
講演

AIで変える AIと変わる

工藤 寛長 株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部
ヘルスケア・サービス産業コンサルティング部 シニアプリンシパル

テクノロジーと人間の共存：製薬業界における新たな機会と挑戦

鈴木 貴雄 中外製薬株式会社 参与 デジタルトランスフォーメーションユニット長

14:20 ~ 14:30 ブレイク

14:30 ~ 15:50
講演

創薬AIプラットフォームの開発とアカデミア創薬への展開

本間 光貴 理化学研究所 生命医科学研究センター チームディレクター

AI技術の発達を踏まえた特許制度上の論点

千本 潤介 特許庁 総務部総務課 企画調査官

AI利活用の日常化がもたらす製薬産業界の変化と知財業務

奥村 浩也 日本製薬工業協会 知的財産委員会 委員長

15:50 ~ 16:00 ブレイク

16:05 ~ 16:55
パネルディスカッション

〈モデレーター〉 奥村 浩也

〈パネリスト〉 工藤 寛長 / 鈴木 貴雄 / 本間 光貴 / 千本 潤介

16:55
閉会挨拶

中川 祥子 日本製薬工業協会 常務理事

17:00 閉会

※講演者、パネリスト、内容等は変更になる場合があります。

アクセス

ソラシティカンファレンスセンター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6

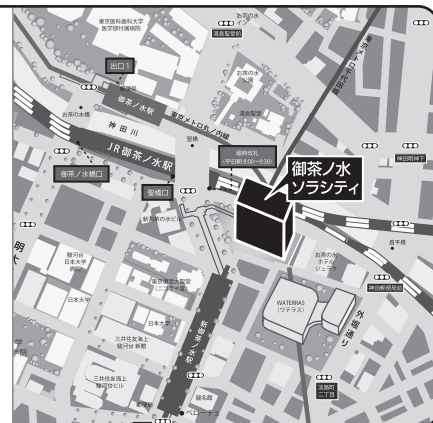
電話：03-6206-4855

JR中央線・総武線 「御茶ノ水」駅 聖橋口から 徒歩 1 分

東京メトロ千代田線 「新御茶ノ水」駅 B2 出口【直結】

東京メトロ丸の内線 「御茶ノ水」駅 出口 1 から 徒歩 4 分

都営地下鉄 新宿線 「小川町」駅 B3 出口から 徒歩 6 分



お問合せ先

2026 ライフサイエンス知財フォーラム準備委員会事務局

日本製薬工業協会 知的財産委員会 担当：川本／野村

TEL：03-3241-0335 FAX：03-3242-1767 E-mail：chizai-forum@jpma.or.jp